

株主メモ

- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第二部
- 証券コード 4119
- 単元株式数 1,000株
- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月中
- 基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
- 単元未満株式買取手数料および買増手数料
無料
- 公告掲載方法 電子公告といたします。
当社ホームページアドレス
<http://www.pigment.co.jp/>
(ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。)

【株式に関するお手続きについて】

○証券会社等でお取引をされている株主様

お手続き お問い合わせ先	お取引のある証券会社等
お手続き・ ご照会の内容	○住所・氏名等のご変更 ○単元未満株式の買取・買増請求 ○配当金の受領方法の指定 等
留意事項	未払配当金のお支払いにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部が承ります。

○特別口座に記録された株式をご所有の株主様

お手続き お問い合わせ先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
手続用紙の ご請求方法	音声自動応答電話によるご請求 TEL 0120-244-479 (通話料無料) インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufj.jp/daikou/
お手続き・ ご照会の内容	○特別口座から一般口座への振替請求 ○住所・氏名等のご変更 ○単元未満株式の買取・買増請求 ○配当金の受領方法の指定 (*) ○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 等
特別口座での 留意事項	特別口座では、株式の売却はできません。 売却するには、証券会社等に口座を開設したうえで株式の振替手続きが必要となります。

(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式は選択いただけません。

株主のみなさまの声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主のみなさまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4119

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。



空メールにより URL 自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2media)についての詳細 <http://www.a2media.co.jp/>
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL 03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL info@e-kabunushi.com

Pigment

日本ピグメント株式会社

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町一丁目9番14号

TEL 03-3258-1412 FAX 03-3258-1418

<http://www.pigment.co.jp/>



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC™ C013080



この報告書は、環境に配慮し、
ベジタブルインキを使用して
おります。

世界を彩る、日本ピグメント

暮らしに色があるかぎり、
わたしたちは、提供しつづけます。

Interim Business Report

第76期 中間報告書 2011.4.1—2011.9.30

Pigment

日本ピグメント株式会社

経営理念

私ども日本ピグメントは、次の4つの理念を使命として、色彩関連製品を提供するとともに、人と自然環境の融合を理念においた製品作りを目指しております。

経営理念

1. 色彩を通じて、ゆとりのある生活をみなさまに提供し、社会の繁栄に寄与します。
2. グローバリゼーションの中で、地域社会との調和と共生を目指します。
3. 技術革新・サービス向上に努め、お客様のニーズに合った環境に配慮した高品質の製品作りを目指します。
4. 個性溢れる人材を育成し、創造性豊かで活力のある企業集団を目指します。

トップインタビュー



株主の皆様には格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
東日本大震災により被災されました皆様に対しまして、
心からお見舞い申し上げます。
一日も早く復旧されますようお祈り申し上げます。

取締役社長 浅羽 幸夫

Q 第76期上期の業績と経営環境について教えてください。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、中国をはじめとした新興国経済が、金融引き締めや先進国経済の減速の影響などから拡大のペースが鈍化傾向にあります。欧州については、ソブリン問題の拡がりや実体経済に影響を与え始めており、米国についても、失業率の高止まりや住宅価格の下落等により極めて弱い景気回復が続くと見込まれているように、全体として景気減速の動きがみられました。

我が国経済においては、海外経済の回復が弱まっているものの、サプライチェーンの立て直しに伴い震災の影響が剥落しつつあり、生産や輸出は持ち直しの動きがみられております。一方で、米国や欧州の信用力低下に伴う円高の進行に加え、企業収益は減少しており依然として厳しい状況にありますが、全体としては緩やかに持ち直しております。

当業界におきましては、自動車産業向けを中心に震災の影響から回復の動きがみられましたが、中東の政情不安や新興国の需要の増加もあり原材料価格は引き続き高騰しており、厳しい事業環境となっております。

このようななか当社グループは、自動車産業向けを中心に需要が回復するなか、引き続き生産効率の向上などの合理化の推進に取り組むとともに更なる製販体制の強化に努め、業績の回復にまい進してまいりました。

このような結果、第2四半期連結累計期間の当社グループの売上高は17,312百万円(前年同四半期比8.2%減)、経常利益は231百万円(前年同四半期比67.5%減)、当四半期純利益は133百万円(前年同四半期比68.9%減)となりました。

Q 下期の見通しを教えてください。

夏場以降、サプライチェーンの復旧に伴い当社の受注も回復傾向にあり、総じて震災の影響から持ち直している状況ですが、足元は、急激な円高やタイの洪水等が自動車産業をはじめとする主要ユーザーの生産に大きな影響を及ぼし始める等、国内を中心に事業環境は厳しさを増しつつあります。当面は、タイの洪水に伴う生産面の影響からいかに回復できるかがポイントになると思われませんが、欧州をはじめとする政府債務危機を背景に金融市場が依然不安定であることや、円高・原材料高傾向等、懸念材料も少なくなく、下期の事業環境については引き続き慎重にみておく必要があると思われまます。こうしたなか、当社グループは、引き続き生産効率の向上などの合理化の推進に取り組むとともに更なる製販体制の強化に努め、業績の回復にまい進してまいります。

Q 戦後最高値圏で円高が推移していますが、当社の状況・対策はどうでしょうか？

当社グループでは、需要立地しているため国内外からの輸出入はほとんどなく、為替変動に伴う直接的な影響は軽微であると考えておりますが、海外子会社の業績等が決算時の為替の影響を受けるほか、急激な円高の継続は日本国内の当社最終需要先である自動車などでの輸出減というような、経済的要因による間接的な影響があると思われまます。また、為替変動に対しては、外貨建債権等に必要に応じて為替予約を行うなどの対策を行っております。

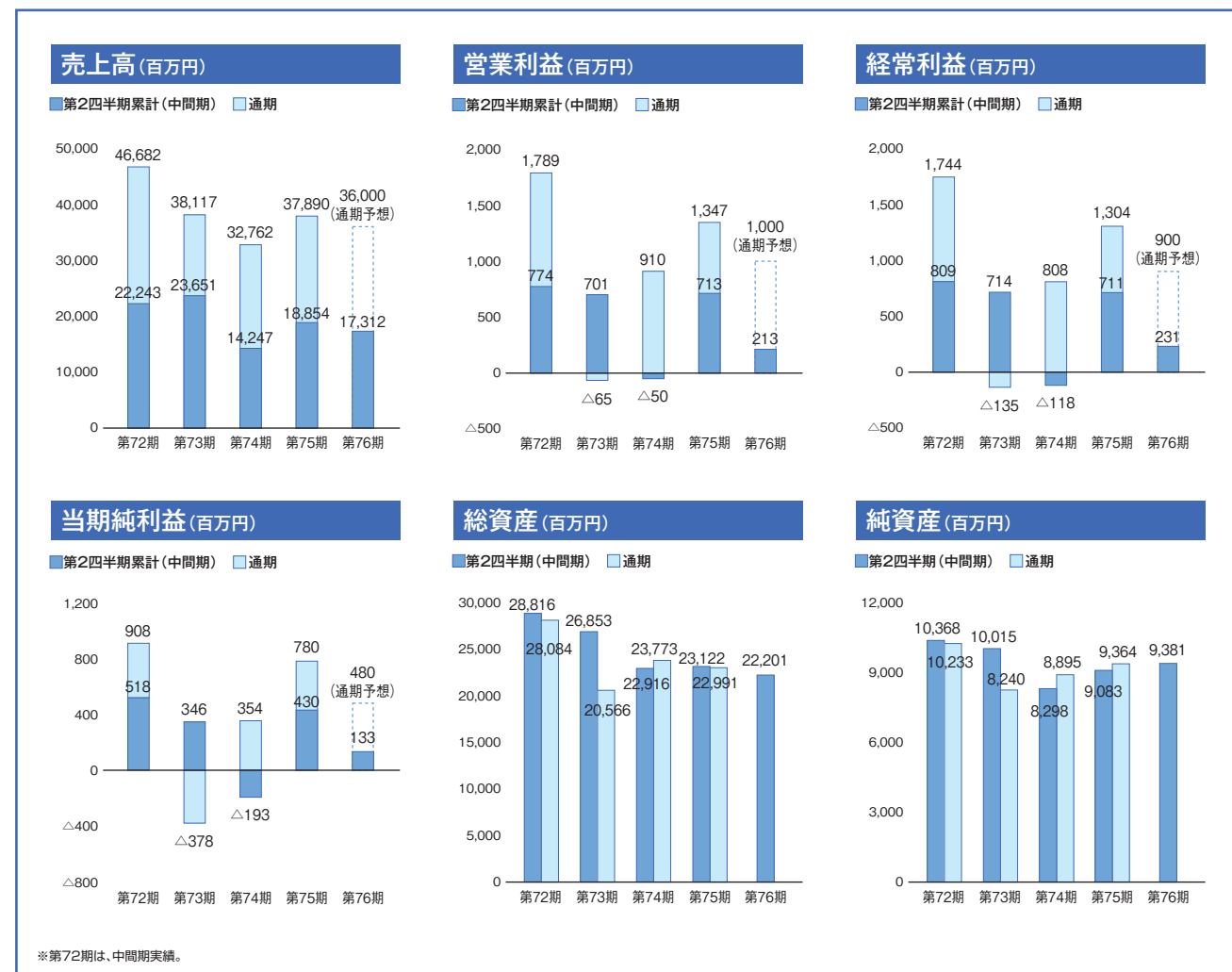
Q 海外移転が加速していますが、当社の海外戦略の方向性を教えてください。

当社の海外戦略の方向性としては、需要の動向を見極め、国内の合理化を推進しつつ、今後の海外展開に関しては新規拠点の構築を含め柔軟に対応してまいります。また、既存海外拠点においては合理化、現地化を推進し、同既存拠点においても急速な海外移転に対応してまいります。



●財務ハイライト

震災の影響で大幅に受注が落ち込みましたが、第2四半期に入り、主要ユーザーである自動車産業向けを中心にサプライチェーンの復旧等に伴い生産が持ち直したことから受注が回復傾向となっております。



●四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 2011年9月30日現在	前期末 2011年3月31日現在
資産の部		
流動資産	11,875	12,585
固定資産	10,325	10,406
有形固定資産	7,805	7,900
無形固定資産	58	53
投資その他の資産	2,461	2,451
資産合計	22,201	22,991
負債の部		
流動負債	9,632	9,941
1 固定負債	3,187	3,685
負債合計	12,819	13,627
純資産の部		
株主資本	9,750	9,758
資本金	1,481	1,481
資本剰余金	1,047	1,047
利益剰余金	7,235	7,243
自己株式	△13	△13
その他の包括利益累計額	△875	△902
少数株主持分	506	508
2 純資産合計	9,381	9,364
負債純資産合計	22,201	22,991

Point.1 固定負債について

固定負債は3,187百万円と前期末の3,685百万円に比べ498百万円の減少となりました。この主な要因は長期借入金444百万円減少したことなどによるものです。

Point.2 純資産について

純資産合計は9,381百万円と前期末の9,364百万円に比べ16百万円の増加となりました。この主な要因は、その他の包括利益累計額が前期末に比べ26百万円増加したことなどによるものです。

連結財務諸表

●四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期累計 自 2011年4月 1日 至 2011年9月30日	前第2四半期累計 自 2010年4月 1日 至 2010年9月30日
売上高	17,312	18,854
売上原価	15,771	16,845
売上総利益	1,541	2,008
販売費及び一般管理費	1,327	1,295
3 営業利益	213	713
営業外収益	101	95
営業外費用	82	97
経常利益	231	711
特別利益	3	14
特別損失	6	70
税金等調整前四半期純利益	228	655
法人税、住民税及び事業税	65	221
法人税等調整額	16	△14
少数株主損益調整前四半期純利益	147	449
少数株主利益	13	18
4 四半期純利益	133	430

Point.3 営業利益について

営業利益はサプライチェーンの復旧等に伴い自動車各社の生産が持ち直したことから、当社受注も回復傾向となったものの、上半期では特に国内が震災の影響で受注が大幅に落ち込み、213百万円と前年同四半期に比べ500百万円の減少となりました。

Point.4 四半期純利益について

特別利益としては固定資産売却益3百万円を計上し、特別損失としては固定資産除売却損6百万円を計上しましたが、震災の影響で大幅に受注が落ち込んだことで、税金等調整前四半期純利益から法人税、住民税及び事業税、法人税等調整額、少数株主利益を差し引き、四半期純利益は133百万円と前年同四半期に比べ296百万円の減少となりました。

●四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期累計 自 2011年4月 1日 至 2011年9月30日	前第2四半期累計 自 2010年4月 1日 至 2010年9月30日
5 営業活動による キャッシュ・フロー	19	536
6 投資活動による キャッシュ・フロー	△207	△152
7 財務活動による キャッシュ・フロー	△699	△1,005
現金及び現金同等物に 係る換算差額	42	△30
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	△844	△652
現金及び現金同等物の 期首残高	2,888	2,729
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,044	2,076

Point.5 営業活動によるキャッシュ・フローについて

当第2四半期連結累計期間において営業活動による資金の収入は前年同四半期連結累計期間と比べ516百万円減少し、19百万円となりました。これは、仕入債務が減少し、税金等調整前四半期純利益が228百万円で、前年同四半期連結累計期間と比べて427百万円減少したことによるものです。

Point.6 投資活動によるキャッシュ・フローについて

当第2四半期連結累計期間において投資活動による資金の支出は前年同四半期連結累計期間と比べ54百万円増加し、207百万円となりました。これは、有形固定資産の取得による支出が229百万円あったこと等によるものです。

Point.7 財務活動によるキャッシュ・フローについて

当第2四半期連結累計期間において財務活動による資金の減少は699百万円となりました。前年同四半期連結累計期間は1,005百万円の減少でした。これは、主に金融機関からの借入の減少によるものです。

セグメント別概況

日本

国内は、第2四半期に入り主要ユーザーである自動車産業向けを中心に回復しておりますが、全体としては震災の影響を大きく受け、第2四半期連結累計期間の売上高は11,389百万円（前年同四半期比12.2%減）となりました。また損益面では、原材料価格の高騰に加え、震災の影響を受けた取扱数量減少に伴う生産効率の悪化により国内子会社の採算が大幅に悪化したことから、営業損失は7百万円（前年同四半期営業利益320百万円）となりました。

東南アジア

東南アジアにおいては、足元は震災の影響が剥落してきておりますが、当第2四半期連結累計期間においては、中国をはじめとした新興国の拡大テンポが緩やかであったほか、自動車産業向け等が震災の影響により受注が減少したことや原材料価格高騰に伴う売上単価上昇もあり、第2四半期連結累計期間の売上高は5,760百万円（前年同四半期比2.7%増）となりましたが、営業利益は239百万円（前年同四半期比33.2%減）となりました。

その他

その他は、当第2四半期連結累計期間の売上高が162百万円（前年同四半期比40.7%減）、営業損失は18百万円（前年同四半期営業利益34百万円）となりました。

各部門別の概況

部門別の概況として樹脂コンパウンド部門は、国内では第2四半期に入り、主要ユーザーである自動車産業向けを中心にサプライチェーンの復旧等に伴い生産が持ち直したことから、受注が回復傾向となったものの、上半期では震災の影響で大幅に受注が落ち込む展開となりました。樹脂用着色剤部門も、自動車産業向けが持ち直したものの、家電産業向けは引き続き在庫調整の影響が残り、全体としては計画を下回る状況となりました。加工カラー部門は、厳しい事業環境に変わりないものの、足元では自動車産業向けの持ち直しのほか、不採算取引の見直しや建材産業向けでの震災特需もあり、回復傾向となっております。



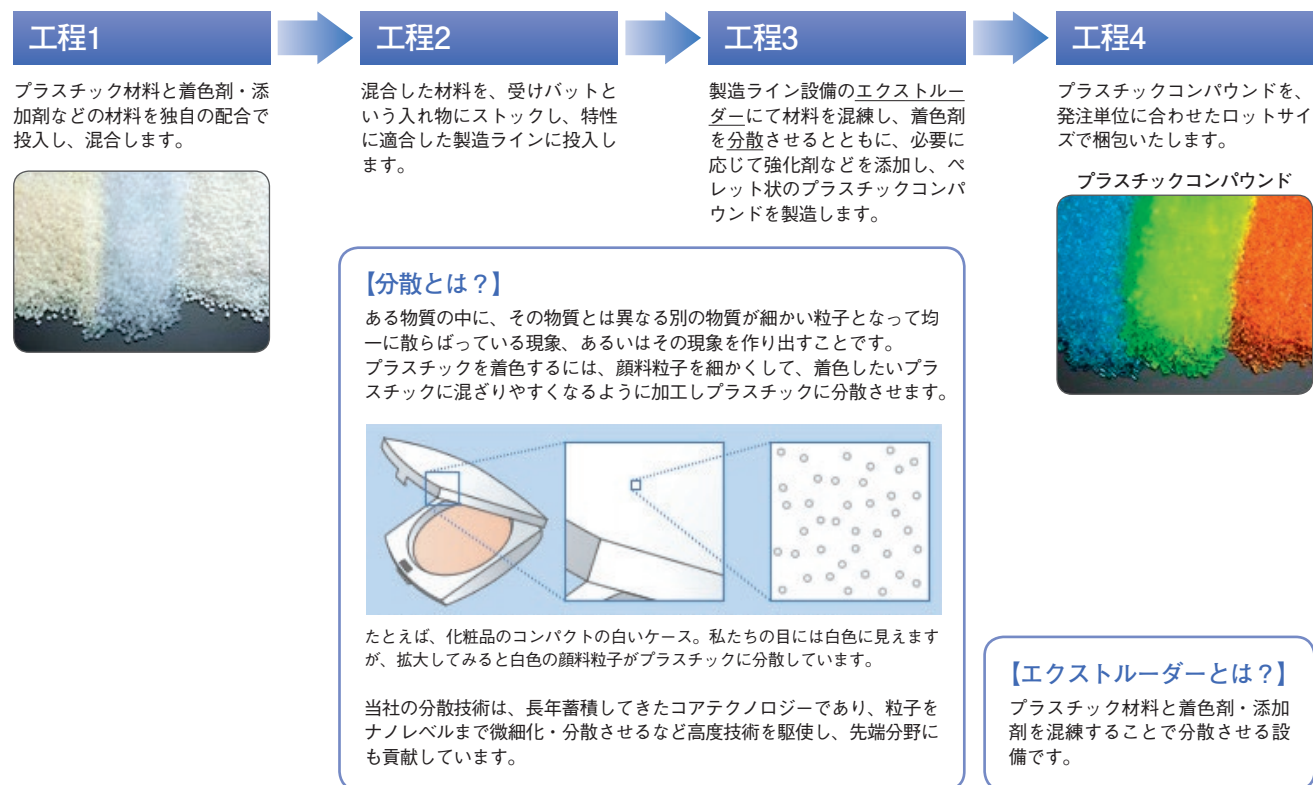
日本ピグメントを知る vol.3 どのようにプラスチックに色をつけてるの？

みなさまに日本ピグメントをより良く知っていただくため、当社製品の用途・事業内容・特長などを、わかりやすくご紹介しています。

内部着色による方法でプラスチックの着色加工を行っています

プラスチックの着色方法は、着色剤をプラスチックに分散するなどによる「内部着色」と、塗装や印刷などによる「外部着色」があり、当社は内部着色による方法でプラスチックの着色加工を行っています。これらは、使用するプラスチック・成形方法などの違いによってさまざまな着色方法がとられていますが、いずれの方法においても、染・顔料を短時間で均一に分散させることが要求されます。

以下は、プラスチック材料に着色剤を分散し、プラスチックの着色・高機能化を図るための製造工程の一例です。



当社のテクノロジー

情報電子材料、情報家電、OA機器、自動車内外装部品、工業部品、包装材、容器、日用品などのあらゆる市場において新しいニーズに応えるため、当社の強みである高分散技術、着色剤・添加剤配合技術、生産技術を融合することで、付加価値の高い研究開発活動を展開しています。

各種汎用プラスチックからエンジニアリングプラスチック、環境に配慮した生分解性プラスチックまで広範囲なプラスチックコンパウンドの開発を手掛けています。



会社の概要 (2011年9月30日現在)

●概要

- **会社名** 日本ピグメント株式会社
(Nippon Pigment Company Limited)
- **本社所在地** 東京都千代田区鍛冶町一丁目9番14号
- **代表者** 取締役社長 浅羽 幸夫
- **創業** 1925年(大正14年)
- **事業内容** 樹脂コンパウンド……プラスチック成形用材料
樹脂用着色剤……プラスチック着色剤
加工カラー……塩化ビニール着色剤等
ピグメントカラー……塗料用、印刷インキ用等
- **資本金** 14億8,115万円
- **株式** 東京証券取引所市場 第二部

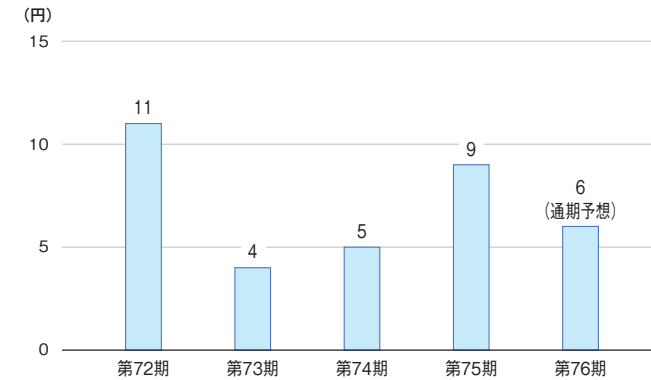
●国内拠点・海外拠点

- | | |
|--|--------------------|
| ● 本社・営業部門 | ● 生産部門 |
| ・本社(東京都) | ・埼玉川本工場(埼玉県) |
| ・東京支店 | ・大阪工場(大阪府) |
| ・大阪支店 | ・東京ピグメント(株)(埼玉県) |
| ・名古屋支店 | ・ニッピ化成(株)(埼玉県) |
| | ・日本プリントインキ(株)(埼玉県) |
| | ・名古屋ピグメント(株)(愛知県) |
| | ・大阪ピグメント(株)(奈良県) |
| | ・三和カラーリング(株)(埼玉県) |
| ● 海外 | |
| ・Nippon Pigment (S) Pte. Ltd. (シンガポール) | |
| ・Nippon Pigment (M) Sdn. Bhd. (マレーシア) | |
| ・P.T.Nippisun Indonesia (インドネシア) | |
| ・天津碧美特工程塑料有限公司(中国) | |
| ・NPK Co.,Ltd. (韓国) | |

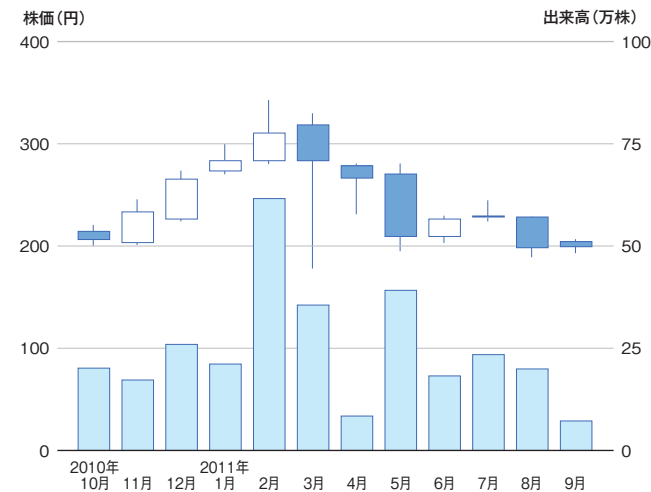
株式の概要

●株式の状況

- 発行可能株式総数 30,000,000株
- 発行済株式総数 15,758,994株
(うち自己株式43,400株)
- 株主数 1,823名
- 配当金の推移



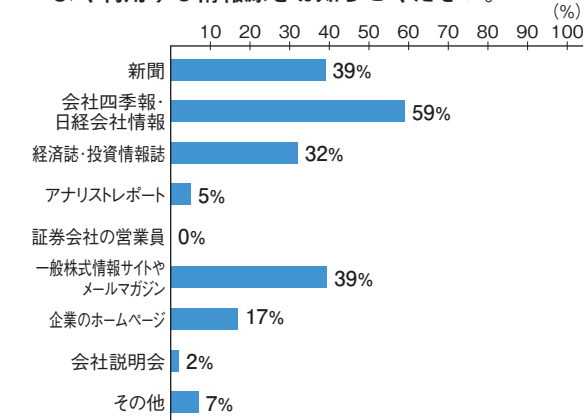
●株価チャート(月足)



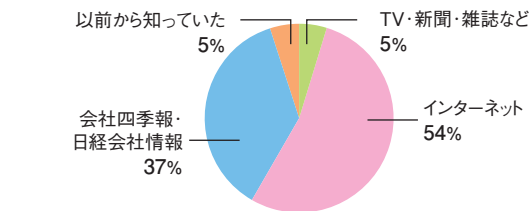
株主アンケート結果

当社では、第75期報告書送付の際に、株主様向けアンケートを実施いたしました。アンケートの結果について抜粋してご報告いたします。

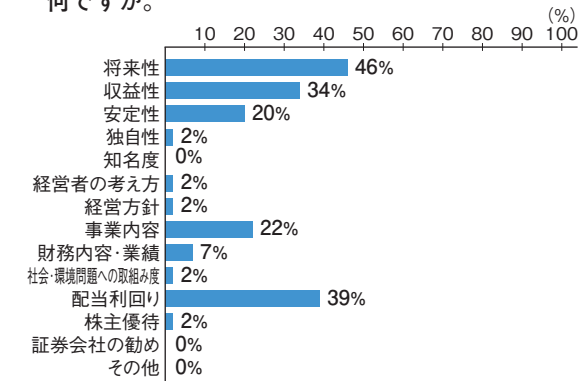
●あなたが投資先を検討する際、よく利用する情報源をお知らせください。



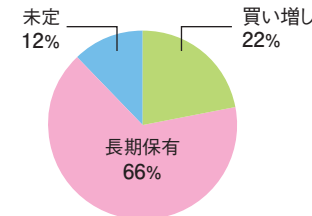
●あなたは当社の株式を購入する際、社名をどこでお知りになりましたか。



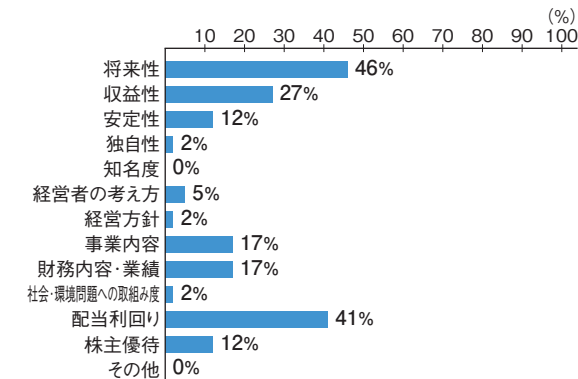
●あなたが当社の株式を購入された理由は何ですか。



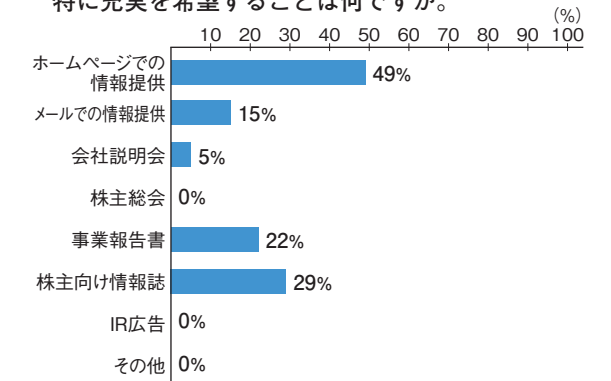
●あなたは当社の株式に対してどのような方針をお持ちですか。



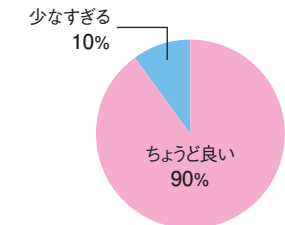
●あなたが当社の株式に対する方針を決定する際、特に重視するものをお知らせください。



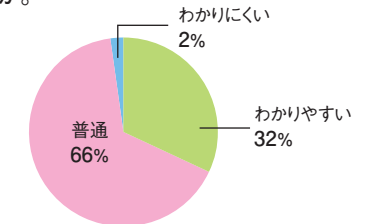
●あなたは当社のIR活動について、特に充実を希望することは何ですか。



●当社の事業報告書について、情報量はいかがですか。



●当社の事業報告書について、わかりやすさはいかがですか。



このたびは、アンケートにご回答いただきまして、ありがとうございました。あらためて御礼申し上げます。今回いただきましたご回答を、今後の参考にさせていただきます。